

令和6年度 研究授業
総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年 11 月 6 日(水)・5校時

【授業者】 川崎 とも子 満木 風也 山垣内 智彦

【単元・題材】 「地域活性化プロジェクト

～ 自分たちの地域にある資源の生かし方を提案しよう ～ 」

【学年・組】 1 学年 1 組・2 組・3 組

【場所】 1 年 1 組・1 年 2 組・1 年 3 組 各教室

三原市立第五中学校

1 年 1・2・3 組 総合的な学習の時間 学習指導案

【指導者】 川崎とも子 満木 風也 山垣内 智彦

【単元名】「地域活性化プロジェクト

～ 自分たちの地域にある資源の生かし方を提案しよう ～」

単元観

「地域活性化プロジェクト」とは、自分たちが暮らす三原についてあらためて学び、三原特有の資源にはどのようなものがあるのか、またその資源をどう生かすことができるのかを提案するというものである。その学習の集大成として、「第5回 広島空港プロポーザル大会」に出場する予定である。

よりよい提案をするために、地域の方々と交流することで自分たちがこれまでに知らなかった新たな知識を身につけ、その成果も取り入れたプロジェクトを提案する。自分たちに身近な地域の中から課題・テーマを発見し、その課題・テーマについて情報を集め、それらを整理・分析したり、互いに出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、協働して考えや意見をまとめ、表現・発表するという探究的な学習の過程を通して、生徒の問題解決に必要な資質・能力（アイデンティティ・発見力・思考力・調整力・表現力・発案力）を育成することができる単元である。

生徒観

本学年の生徒は、入学して1学期に防災についての学習を開始した。特に、地域の方々をお招きしてお話を聴くことで、自分たちの暮らしている地域についてあらためて学び、これまでに知らなかった情報を得ることができた。2018年（6年前）に自分たちが体験した豪雨災害に関連づけて考え、思いを新たにすることができた。さらに、地元の新聞社の方による新聞づくりについての出前授業も行い、学んだことを自分たちの防災新聞づくりに活かすことができた。

本単元の学習のはじめにあたり、事前に行ったアンケートの結果は次のとおりである。

質 問	肯定的回答
三原の資源（歴史・文化・自然など）について知っている。	41.0%
授業では、班などの中で 自分の意見や考えを積極的に伝えている。	56.9%
授業では、クラス全体の中で 自分の意見や考えを積極的に発表している。	35.7%
Chromebook など ICT 機器を使った活動が好きだ。	68.4%

「Chromebook など ICT 機器を使った活動が好きだ。」に対しての肯定的回答が 68.4%、
「授業では、班などの中で 自分の意見や考えを積極的に伝えている。」が 56.9% である一方で、
「授業では、クラス全体の中で 自分の意見や考えを積極的に発表している。」は 35.7% にとどまった。
これらの結果や授業中の様子から、個人での情報収集・探究やツールとしての ICT 機器の活用・小集団での交流には意欲的な生徒が多い一方で、全体の中での自分の意見・考えの発信に課題があることがわかる。

指導観

本単元では、「私たちの三原には どんな資源があるだろうか？地域活性化のために どんな提案ができるだろうか？」という単元を貫く問いを設定し、自分たちの暮らす三原のよさをあらためて感じ、地域に活気をもたらすための活動であることを確認して、学習活動への意欲を高めさせたい。

単元を通じて、①自分たちの知る三原特有の資源（歴史・文化・自然など）を出し合い、より知識を深める方法を考える。②三原に関するさらなる情報を収集する。③プロジェクトを協働しながら企画する。④プロジェクトの内容をまとめ、発表して共有する。⑤「第5回 広島空港プロポーザル大会」において

自分たちの提案を発信する。といった学習活動を設定し、実行していく中で 生徒の問題解決に必要な資質・能力を育成したい。

また、三原について学ぶだけに留まらず、自分たち自身が地域に活気をもたらすためのプロジェクトを企画・提案する活動を取り入れることで、生徒の主体性を発揮させたい。加えて、ICT 機器を用いた学習に意欲的な生徒が多いことから、本単元の学習においても インターネットでの情報収集をはじめとして、Google Workspace for Education などを活用する。例えば Classroom に課題や資料を UP して共有したり、アイデアを出し合うのに Canvas (旧 Jamboard) のホワイトボードを使ったり、企画の内容をスライドでまとめたりする活動を行うことで、情報活用能力の育成を図るとともに 生徒の学習意欲をさらに高めたい。

単元の目標

三原の資源の生かし方についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に地域に参画しようとすることができる。

指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①課題解決のための方法を考え、工夫して学習を進めることができる。 ②自分の暮らす三原のよいところ・課題を理解している。 ③目的に応じて 必要な情報を収集している。 ④三原について探究的に学んだことで、地域に対する認識が深まったことに気づいている。	①これまでもっていた自分の知識や新たに発見したことをどう取り入れるか考え、課題（テーマ）の設定を行っている。 ②調べ学習で発見したこと・感じ、考えたことをもとに、見通しをもってプロジェクトを企画している。 ③交流で得たアイデアを生かしながら、よりよいプロジェクトにするための改善案を考えている。	①課題解決に向け、自分の個性やよさに気づき、探究活動に取り組もうとしている。 ②自他のアイデアのよさを生かし、プロジェクトの完成に向け協働しながら学ぼうとしている。

(2) 単元指導計画 (全 10 時間)

次	学習内容	時間	評価規準	評価の観点			評価の方法
				知	思 判 表	主	
1	1 学習の見通しをもち、 学び方を考える。 (本時) 【ICT】 Canva (ホワイトボード)	1	①課題解決に向け、 自分の個性やよさに気づき、 探究活動に取り組もうと している。 ①課題解決のための方法を 考え、工夫して学習を 進めることができる。	◎		○	行動観察・ Canva (ホワイトボード) 行動観察・ Canva (ホワイトボード)
	2 地域の方にお話を 伺い、三原についての 知識を深める。	1	②自分の暮らす三原の よいところ・課題を 理解している。	○			行動観察
2	3 三原のよさ・課題を さらに出し合う。 【ICT】 Canva (ホワイトボード)	6	①これまでもっていた自分 の知識や新たに発見した ことをどう取り入れるか 考え、課題(テーマ)の設定 を行っている。 ③目的に応じて 必要な情報を 収集している。 ②調べ学習で発見したこと・ 感じ、考えたことをもとに、 見通しをもって プロジェクトを企画して いる。 ②自他のアイデアのよさを 生かしながら、プロジェクト の完成に向け 協働しながら 学ぼうとしている。 ③交流で得たアイデアを 生かしながら、よりよい プロジェクトにするための 改善案を考えている。				行動観察・ Google スプレッドシート 行動観察・ スライド など (生徒が選択 したもの) 行動観察・ スライド など (生徒が選択 したもの)
	4 share したアイデアの 中から、何を扱って 企画を立てるかを 決める。 【ICT】 Google スプレッドシート				○		
	5 自分のテーマに沿って 三原について さらに、 調べながら 企画を立案する。 【ICT】 Canva・「ことまど」・ Google スライド・ インターネット			○	○		
3	6 自分の企画を紹介 し合い、意見・質問や アドバイスをもとに 内容を改善する。 【ICT】 Canva・「ことまど」・ Google スライド・ インターネット	2	④三原について探究的に 学んだことで、地域に対する 認識が深まったことに 気づいている。			○	発表・フォーム
	7 発表・振り返りを行う。 【ICT】 Canva・「ことまど」・ Google フォーム			○			

本時の学習

(1) 本時の目標

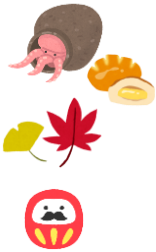
三原についての知識をさらに深めるための学び方を考えることができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 既習事項など と ゴールの確認をする。【10 分】		
○本単元全体と 本時の見通しをもつ。 〔「広島空港 プロポーザル大会」に ついて概要をつかむ。〕	○スライドや動画などを通して ①1 学期に学んだことを振り返らせる。 ②「広島空港プロポーザル大会」や 昨年度の先輩方の姿を紹介する。 ICT の活用 ① モニターを使って スライドを見たり 動画を視聴したりする。	
2 本時のめあてを確認し、課題を共有する。【15 分】		
○本日のめあてを知る。 課題の設定		
【めあて】 三原についての知識をさらに深めるための学び方を考えよう。		
	○テーマ（「三原について」）を知らせる。 ○事前アンケートの結果を示し、自分たちが 知っている・これまでに学んだ三原の資源 （よさ・三原「ならでは」の 人・物・行事・ 歴史・地理など）を思い出すよう促す。 ○三原の現状についてのニュース動画 （今年の夏 市長 再当選時のインタビュー） を視聴させ、三原の課題を知らせ、 あらためて考えさせる。	
3 本時の課題解決に向けて 考える。【20 分】		
創造・表現 ○三原の課題・よさに ついて、学びを さらに深めるための 方法を考える。	○ゴールをよりよく達成するために、 一人一人が できるだけたくさんの アイデアを出し合うよう促す。 ○ヒントの一つとして、小学校での学習や 1 学期の防災学習時の活動（地域の方による 授業）を思い出させる。 （もしも アイデアがなかなか浮かばない様子 であれば、さらに 現地調査 などの例を 挙げる。） ICT の活用 ② Canva の ホワイトボード機能を使い、入力したことを 互いに即時に share しながら、どんどんアイデアを出す。	【知①】 （ホワイトボード・発言） A：学習の見通しをもち、 学び方を複数 考えて いる。 B：学習の見通しをもち、 学び方を考えている。 C：どんなことをする のかはわかったが、 学び方を考える ことができ ていない。

整理・分析 ○出し合ったアイデアを整理し、全体で共有する。	ICTの活用 ③ 続いて Canva の ホワイトボード機能を使い、 班ごとに 互いのアイデアをグルーピングする。	【支援を要する生徒への手立て】 ホワイトボード上の 他の人のアイデアを ヒントとするよう助言する。
4 本時の学習を振り返る。【 5 分】		
まとめ・振り返り ○まとめ・振り返りを入力する。 ○次時の予定・内容を知る。	○フォームに入力した内容の一覧を スプレッドシートを活用して提示し、 全体で share する。 【振り返り(「R80」)】(A 評価の例 ①) 「学びを深めるためには、インターネットで検索するだけではなく、たとえば地域の人や家族の話を聴いてみたり、実際に自分の目で確かめたりすればよいと思う (わかった)。」 【振り返り(「R80」)】(A 評価の例 ②) 「今まで 調べ学習では、インターネットを活用することが多かった。しかし、学びを深めるために 今回は インタビュー活動や現地調査、アンケートなどにチャレンジしたいと考えた。」 ○自分たち自身による活動 と 他からの協力が必要なことを確認する。 本時で出たアイデアをもとに 今後の活動を 進めていくことを予告する。	フォーム

(3) 板書計画

「地域活性化プロジェクト ～自分たちの地域にある資源の 生かし方を提案しよう～」	知識を深めるための 学び方を考えよう
(昨年度の 大会の 様子の画像)	 (挙がった 資源を 板書) 三原 (映像で観た 課題を 板書)